

令和3年度米子市原子力発電所環境安全対策協議会議事録概要

1 日時 令和4年2月15日(火) 16:00~16:50

2 場所 国際ファミリープラザ2階 ファミリーホール

3 出席者

(1) 委員(敬称略)

伊木隆司(会長)、西谷勝之(副会長)、脇坂喜啓(副会長)、谷本晴美、福田憲保、谷本恵美、小谷良夫、藤原実男、川崎範子、木村定雄、万木良平、高橋誠一、田邊忠雄、永見修司、松本眞、永東清、尾崎学、新田ひとみ、深田卓也、金森誠、伊澤勇人、浦林実、杉尾繁樹

(2) 事務局

佐小田防災安全監、大野原防災安全課長、田中危機管理室長、戸崎係長

(3) 一般傍聴者7名

4 議題

(1) 副会長指名

(2) 島根原子力発電所2号機に関する意見について

5 議事録概要(要点議事録)

(1) 開会挨拶

○伊木会長

先般より島根原発2号機の課題について様々な意見聴取をしてまいりましたが、その最終的な意見の取りまとめを行うために開催させていただいた。

これまで、県、境港市と合同で会議を開催させていただき、国や中国電力に様々な質疑をさせていただいた。県の原子力安全顧問にも質疑をさせていただいた。さらに先般、皆様にアンケート調査をさせていただき、回答を頂いた。そうしたアンケートの結果報告と、追加的なご意見が無いかどうかを改めて聞かせていただき、今後の議会に対する報告としてあげていきたい。

本市としては、こうしたプロセスを経ながら、考えを取りまとめていきたいと思う。

(2) 議事

①副会長指名

○伊木会長

昨年の委員改選に伴い、新たに副会長を選任する必要がある。

当協議会の要綱第4条に、協議会に副会長を2名置くこと、副会長は会長が指名することが定められている。

副会長は引き続き米子市建設業協議会副会長の西谷様、そして、米子市自治連合会副会長の脇坂様を指名させていただく。

②島根原子力発電所2号機に関する意見について

○田中危機管理室長

<資料1「島根原発2号機の安全対策、避難対策等に関するアンケートの結果について」

に基づき説明>

○伊木会長

この報告に追加あるいは補足のご意見があれば承りたい。

○新田委員

避難計画に実効性があるかということ。一番気にしているのは30km圏外。そういう人たちはほとんど何も知らされていない。ハンドブックを配られているが、見る事ができていない。避難計画をほとんどの人がわかっていない。30km圏内の人も、何人の人が参加したのか。原発そのものが安全だと言っても、避難計画に関しては実効性があるとは言えない。避難計画について、市として市民に分かるように説明し、話し合う場を作っていただきたい。

今回の「新規制基準合格」というのは施設についてのみ。早急に再稼働するしないではなく、変化を見ることが必要だと思う。特に火山灰。トンガでも、最初は「日本は大丈夫だろう。」と言っていたの

が、影響があった。もし事故があった時の施設内ではどうか。そういうこともしっかり見ていく必要がある。

○深田委員

最初の方では「再稼働すべき」という意見もあった。オールオッケーという感じの意見もあった。避難計画については「十分な避難計画である」という意見は皆無。避難計画が十分でなければいけないのではないかと思う。

○金森委員

先般防災安全課にお聞きしたとき、各自治会の原子力災害時の避難計画を作っているところは無いと言われた。今日は各地区の連合自治会長が来ておられる。実態をお聞きしたい。

○伊木会長

今日はそういう議論の場ではない。意見聴取の場。「そういう意見があった」ということで承る。

○木村委員

今まで数回、政府を含めて説明があった。何回も確認したが、回答が得られなかった。基準地震動は500から820に変更された。震度に直すとどうかと聞くと、「わからない」と言われた。津波あるいは地震を想定しているかと尋ねると、「基準を満たしているので安全だ」という前提で言われ、理解に苦しんでいる。宍道断層は22kmから39kmに修正された。「820ガルだが、岩盤の上に施設を付けるので安全だ」と。島根県の資料によると、宍道断層の地震では震度7。それに対する避難者が3万750人。宍道湖南方断層は震度6弱、それに対する避難者は4,661人。鳥取県の分を調べてみると、宍道断層22kmは境港に震度5弱、一部震度6弱が分布している。宍道断層39kmは境港に震度6弱、米子市の一部には震度6弱。震度5弱から6弱に対応すると私なりに理解するが、道路が数か所寸断される。それらを踏まえたマニュアルを作っていたいただきたい。

○金森委員

米子市はUPZ外の住民が大多数。UPZ外の住民は自由に避難してよいと解釈している。地域の方も逃げると言っている。そういう解釈でよいのか。

市長も中電と話をされることがあると思うが、原子力発電所の所長以下、職員は禁酒にしてほしい。出勤時にはアルコール検査の実施。ヒューマンエラーの心配が多分にある。中電の幹部、社長以下、取締役の皆さんも、いざ緊急事態になったら対策本部で指揮をとらなければならない。禁酒にしてほしい。中電本部の方は海外渡航もやめてほしい。24時間体制でノンアルコール、常に島根原発の稼働状況をチェックしていただきたい。

学校関係について。屋内避難について、学校はガラスの面積がすごく広い。放射線遮へいガラスにしないと、ほとんど放射能によって被ばくする。全学校を放射線遮へいガラスにしてほしい。県立学校、保育園も対策をとるべき。

○新田委員

安全協定の問題について。どう考えているかはきちんと出していただきたい。

プルサーマルについて。説明会の中では、「プルサーマルはやります」という中電の回答だったと思う。プルサーマルは世界的にも駄目だろうと言われている。日本でも全然できていない。もし稼働するにしても、プルサーマルはどうなのか、安全協定も含めてきちんとしていただきたい。

○松本委員

専門家は色々な側面から検証しておられる。私たちは専門家ではないので、これを信じるしかないと思う。エネルギーの安定供給、地球温暖化対策の脱炭素、発電コストの低下などを考えると、原発はやはり必要だと思う。もちろん安全性の担保は大前提。

ヒューマンエラーという話があった。これまで報告されているように、中国電力の不適切な事案があった。信頼への不安を拭い去ることができない。そういうところを中国電力に強く求めていきたいと思う。

○福田委員

低廉で安定したエネルギーは、私たちの生活に欠かせない。産業界には必須なもの。これが無くては産業界は生きていけない。運転上の安全性を最大限確保した上で再稼働して、安定した電力を供給していただきたいと産業界としては思っている。

○杉尾委員

避難計画。河崎校区までは意識がある。それ以降、旧市内は消防団でも意識が無い。UPZ外の消防団にも周知して、協力できる体制づくりをしてほしい。

原子力発電。国の政策として、必ず必要だと思っている。ガスなど資源が無い国は電力ができないというわけではない。

避難計画については消防団でも周知をし、少しでも安全な市民生活ができるようにしたい。

○田邊委員

多大な資金と膨大な労力を掛けてやっておられると思っている。

問題はやはり、運転する人間、組織。組織というのはどうしても事故が起こると隠蔽したりする。過去からそういうものであると思っている。委員会でも組織や構造の話は掘り下げたが、運用手順は福島原発でどこが悪かったのか、もっと重点的に調べるべき。組織はたるむもの。怠らないようにして、劣化だけは防いでほしいと強く思う。

○深田委員

本日は意見聴取をする会で、議論する場ではないということ。それはそれでわかるが、多様な意見や質問が出ている。今日の会議を踏まえてイエスかノーかで答えを出すのであれば、どこかの条例案はイエスかノーかで出すことに反対されたのだから、多様な意見に対する市としての回答なり見解を出すべき。今日出すべきというわけではないが、今日出た意見とアンケートでの意見一つ一つに対し、きちんと米子市としての見解を。是非お願いしたい。

○伊木会長

そういう意見があったということはきちんと議会にもお伝えし、議会の方で最終的な議論をしていただくという流れを考えている。ご了解を頂きたい。

○新田委員

アンケートの回答と今日出された意見は、全部議員に出されるのか。それとも集約した形で出されるのか。多様な意見が出ている中で、微妙な意見の違いもある。集約されないのがよい。本日は意見聴取の場ということであれば、我々の意見はきちんと出してほしい。

○伊木会長

アンケート結果と追加で出された意見は、各議員へ資料配布等によって議論の土台としていただくこととしたい。

○金森委員

商工会議所の方が、経済に電力が必要と言われた。2021年第4四半期のGDPの上昇は、年率に換算すると6～7%。原発の稼働は全体の1/4だったにもかかわらず、GDPは急激な伸びを示している。代替エネルギーはできている。原子力発電に頼らなくても問題無い。もっと心配されないといけないのは、事故が起こった場合、ほかの県の山間地域で商売をされないといけないということになりかねない。米子を捨ててどこかで商売される強い覚悟を持たれたときに、推進賛成ということをお願いしたい。

米子市に言いたい。私は太陽光発電を付けている。FITで9年前に始めた。FITが終わって蓄電池を買うことになった。境港市や伯耆町には補助がある。米子市は無い。米子市はクリーンエネルギーの導入に前向きでない。

原子力は核分裂連鎖反応を使っている。太陽と、地球の原子力発電所だけ。人間が制御できるかギリギリのもの。暴走すれば大変なことになる。寿都町で地下調査をしているが、半減期は10万年。ガラス固化体は近づいたら20秒で死ぬという物。島根原発にも多数置いてある。真剣に考えて上で賛成してほしい。

○木村委員

噴火について。56 c mに修正したとあった。歴史を調べてみると、松江、出雲、東北、長野県でも1 mくらい積もるといふ検証もされている。対策としてネットを設置したとのこと。福島を検証でも、このネットはつまりやすいとのこと。この辺りももう一度検討していただきたい。

○伊木会長

皆様から大変貴重な意見を頂いた。議題2については以上とさせていただきます。